



河小だより

四日市市立河原田小学校
学校通信 第 8 号
令和6年9月9日(月)
文責 校長 福井 宣行



令和6年度全国学力・学習状況調査の結果

全国学力・学習状況調査は、「教育施策の成果を検証し、その改善を図る」、「学校に置ける学習指導の充実や学習状況の改善に役立てる」と、及びその取り組みを通じて「継続的な検証改善サイクルを確立する」ことを目的として行われています。令和6年度は、4月18日(木)に小学6年生(及び中学3年生)を対象に行われました。今回は、その結果と今後の取り組みについてご報告します。河原田小学校としての平均値であるため、個々の児童によって活かせる部分とそうでない部分もあるかと思いますが、参考としてください。

1 各教科について(全国・県平均比較で、正答率5p以上【◇】以下【◆】を抽出)

(1) 国語科

本校の平均正答率は、全国平均及び県平均を下回っています。特に、以下の点が苦手な傾向がありました。

- ◆ 目的や意図に応じて伝える内容を検討したり、表現を工夫したりすること(「話すこと・聞くこと」)
- ◆ 物語の人物像を具体的に想像すること

本校の国語科に関する意識は、以下の設問で全国平均及び県平均を上回っていました。

- ◇ 国語の勉強が好き
- ◇ 国語の勉強は大切だと思う
- ◇ 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う(肯定的回答100%)

さらに、学力調査結果と質問調査のクロス調査により、以下の点が明らかになりました。

- 苦手な傾向が見られていた「話すこと・聞くこと」や「物語の人物像の想像」について、普段の授業から「できている」という肯定的な回答率が、全国平均及び県平均を上回っている。学校としては、実際の児童の様子から、「できている」と肯定的に捉えられる状況ではないと判断している。

(2) 算数科

本校の平均正答率は、全国平均及び県平均を下回っています。特に、以下の点が苦手な傾向がありました。

- ◆ 問題の数量の関係を捉え、式に表すこと
- ◆ 表から必要な数値を読み取って式に表すこと、また基準値と比較すること
- ◆ 「円」・「小数」・「速さ」に関する理解

本校の算数科に関する意識は、以下の設問で全国平均及び県平均を上回っていました。

- ◇ 算数の勉強が好き
- ◇ 算数の授業で学習したことを、普段の生活で活用できないか考えること

《本校の強み(○)と弱み(●)》

○国語科・算数科ともに、学習の必要性を理解し、その上で「好き」と答えている児童が多い。

●算数科では、内容の理解が薄いと考えられる単元がある。

●児童自身の理解度や達成度についてのメタ認知が弱いと推察される。

2 児童質問紙より(全国・県平均比較で、回答率5p以上【◇】以下【◆】を抽出)

(1) 学校生活

- ◇ 学級でより良くするための話し合いをしている
- ◇ 学級で話し合いを生かして、努力すべきことを決めている
- ◇ 道徳の授業で、考えを深めたり、話し合う活動をしたりしている
- ◇ ICT機器の画像や動画等で学習内容がわかる
- ◇ ICT機器で友だちと協力して学習を進める
- ◆ 先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う

(2) 家庭・地域生活

- ◇ 放課後や週末に地域の活動に参加している
- ◆ 授業以外でタブレットPCを学習のために使っている
- ◆ スマホ等による動画視聴時間が1日3時間以上
- ◆ 授業以外の平日の学習時間1時間未満

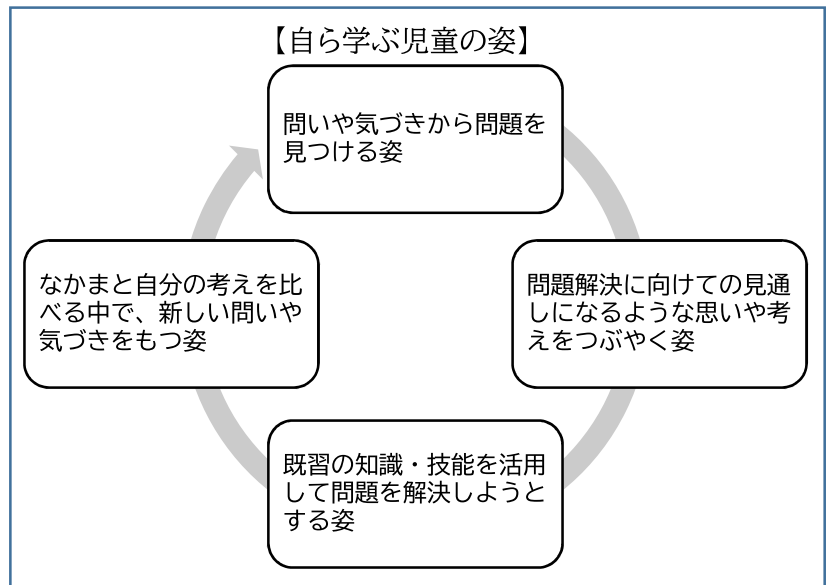
(3) 肯定的回答の100%を目指す質問とその肯定的回答率

「学校に行くのは楽しいと思いますか」98% 「自分には良いところがあると思いますか」80%

3 今後の取り組み

(1) 授業改善について

- 児童の「国語が好き」「算数が好き」という気持ちを大切に、少人数教育や放課後学習会を含め、個に応じた「指導の個別化」を引き続き推進します。
- 「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだと考える児童生徒ほど、各教科の正答率や挑戦心・自己有用感・幸福感等が高い」という文部科学省の分析を根拠として、右図の児童の姿をイメージし、自ら学び共に高め合うことができる授業づくりを目指します。



(2) 学校生活について

- 児童の実態から、教職員一同がさらに意識を高め、児童の「よいところ」を認めていきます。

(3) 家庭学習について

- 「自ら学ぶ姿」をもとにした家庭学習の方法を指導し、各家庭と協力し、家庭学習の充実を目指します。

(4) スマホ等の活用について(依頼)

- 今回の調査で、スマホ等の利用時間の長さが、学力低下と相関関係があると言われていました。また、東北大学加齢医学研究所によると、「スマホ等を使っている時は脳が活発に動かないことから、長時間使用すると、前頭前野を中心に、脳が発達していない」ということがわかっています。前頭前野は、人の気持ちを理解したり、場の空気を読んだりするような高次なコミュニケーションをつかさどる箇所であるため、学力だけでなく社会生活への影響も懸念されます。同時に、脳は、悪い習慣を断ち切るだけで、機能が回復することもわかっています。子どもの健全な成長のために、今からでも家庭でのルールの確認をお願いします。